

新堀小学校の評価・評定

1. 「あゆみ」の評価

- ・あゆみの評価は、学習指導要領に示されている各学年の目標、及び各教科の評価規準に照らし合わせて評価する、いわゆる絶対評価を実施し、学期末に成績をつける。
- ・各教科は観点別に評価する。各教科の評価の観点は以下のとおりである。なお、あゆみの評価項目一覧は、別紙1の通りである。

【各教科の評価の観点】

<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語についての知識・技能 ・言語についての思考・判断・表現 ・主体的に国語の学習に取り組む態度 	<p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象への知識・技能 ・社会的事象についての思考・判断・表現 ・主体的に社会科の学習に取り組む態度
<p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数についての知識・技能 ・算数についての思考・判断・表現 ・主体的に算数の学習に取り組む態度 	<p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科についての知識・技能 ・理科についての思考・判断・表現 ・主体的に理科の学習に取り組む態度
<p>【生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活についての知識・技能 ・生活についての思考・判断・表現 ・主体的に生活科の学習に取り組む態度 	<p>【音楽】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽についての知識・技能 ・音楽についての思考・判断・表現 ・主体的に音楽の学習に取り組む態度
<p>【図工】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図工についての知識・技能 ・図工についての思考・判断・表現 ・主体的に図工の学習に取り組む態度 	<p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科についての知識・技能 ・家庭科についての思考・判断・表現 ・主体的に家庭科の学習に取り組む態度
<p>【体育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育についての知識・技能 ・体育についての思考・判断・表現 ・主体的に体育の学習に取り組む態度 	<p>【外国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語についての知識・技能 ・外国語についての思考・判断・表現 ・主体的に外国語の学習に取り組む態度

- ・評価は以下の3段階とする。

「よくできる」・・・A評価=全て、もしくは、ほとんどの単元の評価規準のAに到達している。(90%以上)

「できる」・・・B評価=どの単元でも評価規準のBに到達している。また、到達していない単元がいくつかあっても、多くの単元で評価規準のBに到達していて、全体的におおむね到達している。(90～70%)

「がんばろう」・・・C評価=ほとんどの単元で評価規準のBに到達していない。(70%未満)

※()内の割合は、一つの目安である。例えば、ワークテストの平均点が65点だけで評価すれば「C」となるが、授業内の形成的評価や、評価後の指導などを考慮して「B」と判断した場合は、「B」と評価することもある。

- ・以下のような資料をもとに、学習状況を判断し、評価する。

各授業時間における観点別評価の記録・総括的評価(ワークテスト等)・各種作品・行動記録など

- 各単元、各観点別に評価していき、学期末に総合的に評価する。

(例) 4年生1学期 算数科「知識・技能」			
大きな数	角の大きさ	わり算の筆算(1)	垂直と平行 いろいろな四角形
B	B	B	A
→4年生1学期 算数科「知識・技能」の評価は「B」となる。			

- 体育の保健学習については、指導計画に、該当する学期のみ評価し、その他の学期は、斜線とする。ただし、年間を通して評価しないということがないようにする。
- 学年間で、各教科どの単元の何がどの程度到達していればいいのか、話し合い統一しておく。

2. 「指導要録」の評価・評定

(1) 各教科の学習の記録における「I 観点別学習状況」について

- 小学校学習指導要領に示された各教科の目標に照らして、その実現状況を観点別に評価し、A、B、Cの記号により、3段階で記入する。

A：十分満足できると判断されるもの
B：おおむね満足できると判断されるもの
C：努力を要すると判断されるもの

- 評価の観点については、設置者が小学校学習指導要領に示された目標を踏まえて、「児童指導要録の様式及び取り扱い(文部科学省)」の参考資料「学年別の評価の観点の趣旨(同資料のP. 30～)」を参考にして設定したものを記入する。

(2) 各教科の学習の記録における「II 評定」について

- 第3学年以上の各教科の学習の状況について、小学校学習指導要領に示された各教科の目標と照らして、その実現状況を総合的に評価し、3、2、1の3段階で記入する。

3：十分満足できると判断されるもの
2：おおむね満足できると判断されるもの
1：努力を要すると判断されるもの

- 「I 観点別学習状況」に掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものである。

※ なお、道徳および外国語活動の評価は記述により、毎学期行う。読書科については、学年を通して1度は記述にて評価する。

3. 評価から評定への総括方法

(1) 「あゆみ」の各学期末評価から「指導要録」の「I 観点別学習状況」への総括方法

- 「あゆみ」の各学期末評価を、観点別で以下のように総括し、学年末観点別評価をし、これを「指導要録」の「I 観点別学習状況」として記録していく。

1～3学期の「あゆみ」の評価	学年末観点別評価
AAA	A
AAB	
ABB	
BBB	B
BBC	
BCC	
CCC	C

これを、「指導要録」の「I 観点別学習状況」として記録していく。

